

【研究論文】

岡崎女子大学での学びの成果
～ 1 期生の職場訪問の取り組み～

白垣 潤* 鈴木方子** 佐善 圭* 大岩みちの*

要 旨

平成 29 年 3 月に卒業した岡崎女子大学の 1 期生の職場を訪問することにより、現在の就労状況を知るとともに、大学での学びが社会人となった時にどのように生かされているのか、面談とアンケートを通して検証することを目的とした。その結果、大学で学んだ技能として音楽系・美術系・体育系の教育が有効に働いていることが明らかとなった。特筆すべき結果としては、調査時点では、やめたいと思ったことがある者が 60% 弱もあり、看過できない状況であった。大学での養成プログラムについて、現場で求められる人材像なども鑑み、精査しながら改善していくこと、学生時代に現場での仕事に耐えうる耐性を担保していくこと、就職の時にもう少し細かいマッチングを行うことなどが肝要ではないかと考察された。

キーワード：職場訪問、教育改革、養成校と現場の連携、大学での学び

I. はじめに

平成 27 年度より子ども・子育て支援制度が施行され、保育の現場は大きな転換期を迎えようとしている（梅下ら、2016）¹⁾。また、無藤（2015）²⁾ も「現在そして今後の最大の課題は、その保育および保育者の専門性を確立することです。それには待遇の改善、研修時間の確保、研修の高度化、また養成課程の充実等々の課題があり、それに向けて、制度が有効に機能するようにする必要があります。」と述べ、保育者の専門性の確立が喫緊の課題であるとしている（梅下ら、2016）。保育者の専門性については、これまでの保育学の進展の過程で、様々に論じられてきている（神長、2015）³⁾。『保育学研究』においては、各巻に、保育者の専門性や保育者養成カリキュラムの課題等々についての数多くの論文が掲載されている（神長、2015）³⁾。実際に 2001 年『保育学研究』第 39 巻第 1 号では、特集として「保育者の専門性と保育者養成」を取り上げている（神長、2015）³⁾。しかしながら、保育者の専門性については議論を重ねながらも、その議論が深まらない（神長、2015）³⁾、や幼児教育の重要性が認められ、従来の幼保二元化から保育の転換期にさしかかりつつある中で、更なる保育者の専門性向上が求

められてきているにもかかわらず、保育者の社会的評価の問題が焦点化されていない（吾田、2009）⁴⁾などの指摘も散見される。

そのような背景の中、平成 25 年 4 月に開学した岡崎女子大学も、平成 29 年 3 月に 1 期生が卒業し、教育・保育現場に送り出した。保育者養成校では、学生が将来質の高い保育者として従事できるよう、講義・演習・実習を通した幅広い学びを提供している（林ら、2017）⁵⁾。そこで、本研究では、岡崎女子大学 1 期生の就職先を訪問し、大学での学びがどのように生かされているのか、さらに専門職として働き続けるためには、大学で何を学ぶ必要があるのかについて検討することを目的とする。

平成 29 年 3 月に卒業した岡崎女子大学 1 期生の就職先を訪問し、大学での学びがどのように生かされているのか、さらに専門職として働き続けるためには、大学で何を学ぶ必要があるのかについて探求した。さらに本研究は、職場を大学の教員が訪問することによって養成校と現場が連携するきっかけとなり、学生の就職満足度を高めていくことも視野に入れた取り組みである。

* 岡崎女子大学

** 岡崎女子短期大学

Ⅱ. 対象と方法

調査対象は、岡崎女子大学を卒業した1期生63名中62名が就職し、そのうち保育専門職に就職した60名中55名であった。

方法は、梅下ら(2018)¹⁾、林・新井(2013)⁵⁾、森本ら⁶⁾、岡本ら⁷⁾を参考にして調査用紙を作成し、在学時のゼミナール担当教員を中心に実際に就職している園(施設も含む)を訪問し面談を行った。ケースによっては園長(施設長)と話をする機会も持った。質問用紙は、郵送による留置法によって匿名で実施した。調査にあたっては、研究についての説明を文書にて行い研究協力承諾書を調査用紙に同封し、文書にて同意を得た。

調査内容は、(1)園の実態について(6項目)、(2)対象者の勤務実態について(22項目)、(3)対象者の職場でのストレスについて(8項目)、(4)大学での学びが現在活かされているかについて(13項目)、(5)保育者を志す、大学在学中の後輩、保育の道に進学しようとしている高校生に向けてのメッセージ、の計50項目であった。本稿ではそのうち、(4)大学での学びが現在活かされているかについて(11項目)、(5)保育者を志す、大学在学中の後輩、保育の道に進学しようとしている高校生に向けてのメッセージについて検討した。

なお(4)の11項目は内容によって(1)大学での学びが現在活かされているか、(2)やめたいと思ったことがあるか、の2項目に分類して記述し、それぞれに考察を加えた。^{注1)}

調査用紙の回収数は55名中42名で、回収率は76.4%であった。42名の回答の中には設問によって有効回答でないものも認められた。その場合は結果に記載した。

Ⅲ. 結果と考察

(1) 大学での学びが現在活かされているかについて

本項では、大学で学んだ専門知識、技能、考え方、人間関係についてまとめる。

①大学で学んだ専門知識が現在活かされているか

「あなたは大学で学んだ専門知識が現在活かされていますか？」について有効回答数は42件

(100.0%)で、非常に活かされているが3件(7.1%)、どちらかと言えば活かされているが25件(59.5%)、どちらでもないが8件(19.0%)、どちらかと言えばそう活かされていないが3件(7.1%)、あまり活かされていないが3件(7.1%)であった。活かされていると感じている者が70%弱しかいないという結果であった。

②具体的にはどういう専門知識が活かされているか

「具体的にはどういう専門知識が活かされていますか？考えられるものを全て書いてください」については、保育の基本的な知識、乳児保育、子ども理解、子ども理解での視野の広さ、子どもとの関わり方、受け止め方、心理面(子ども理解)、心理カウンセリング、発達学、乳幼児の発達について、愛着など、幼児音楽、幼児曲、音楽コードの勉強、手遊び・ピアノ、作曲のゼミ、弾き歌い、造形、幼児体育、体操、表現遊び等(自由に体を動かさせられる)、5領域について、PDCAサイクル、手遊びや教材づくりの技術、台本の書き方、舞台発表について、書類(月案etc)の書き方、書く力、乳児保育や福祉など、保育内容「ことば」、相談援助(保護者対応)、障がい児保育、障がい児の知識、気になる子への対応、子どもの病気・感染症、アレルギーについてなど、サークルでの経験などが挙げられた。その他、「学んだこと、ほぼ忘れちゃった。実践してなんぼ！！でも、色々なこと教えてくれてありがとうございます！って思う」という記述も認められた。

③大学で学んだ技能が現在活かされているか

「あなたは大学で学んだ技能が現在活かされていますか？」について有効回答数は42件(100.0%)で、非常に活かされているが5件(11.9%)、どちらかと言えば活かされているが25件(59.5%)、どちらでもないが10件(23.8%)、どちらかと言えばそう活かされていないが0件(0.0%)、あまり活かされていないが2件(4.8%)であった。この項目についても活かされていると感じているものが70%強しか認められなかった。

④具体的にはどういう技能が活かされているか

「具体的にはどういう技能が活かされていますか？考えられるものを全て書いてください」に

については、音楽、ピアノ、うた、弾き歌い、演奏技術、コード、表現、手遊び、リズム遊び、表現あそび、表現力、発想力、造形、造形ゼミで学んだこと（寒天遊びや絵の具遊び）、造形のおもちゃづくり、工作、ペープサート、パネルシアター、エプロンシアター、身体表現、長期フィールド実習、実習の経験、実習での先生の保育の仕方、実習で学んだ子どもとのかかわり方、パソコン、女性のマナー・接遇、グループワーク、絵本の読み聞かせ（サークル）、肯定的に子どもの姿を書くこと、人前で話す力、子どもの前に出るとき、週案、月案を記入するとき、指導案など、サークル、サークル（Hobbit）での経験などが挙げられた。本学の基幹科目である音楽系・美術系・体育系の教育が就職1年目の保育者にとって有効に働いていることが伺えた。

⑤大学で学んだ考え方が現在活かされているか

「あなたは大学で学んだ考え方が現在活かされていますか？」について有効回答数は42件（100.0%）で、非常に活かされているが5件（11.9%）、どちらかと言えば活かされているが21件（50.0%）、どちらでもないが13件（31.0%）、どちらかと言えばそう活かされていないが0件（0.0%）、あまり活かされていないが3件（7.1%）であった。この項目についても活かされていると感じているものは60%強であった。

⑥具体的にはどういう考え方が活かされているか

「具体的にはどういう考え方が活かされていますか？考えられるものを全て書いてください」については、子どもの理解の仕方、子どもの内面に目を向けること、子どもに対するかかわり方、しかるのではなく、褒めて伸ばす、子ども主体の考え方、子どもたちに寄り添う、子ども主体の保育、受け止める、共感する、理解する、一緒に楽しむ、子どもの最善の利益を守ること、一人ひとりの個人差を理解した援助、子どもの気持ちを受け止め、共感する、保育士としての心がまえ、子どものとらえ方、どんな保育者になりたいか、人に受け入れられているという安心感、自己肯定感（4年間で一番大切だと感じたことです）、物事を様々な方向から見て考えること。様々な考え方の人がいる中で、1つ1つの考え方を尊重しつつ、自分なりに考

えること、人それぞれ考え方があるということ、「世の中こういう人もいるんだな」と思ってすごしています、保育者は子どもの見本（モデル）、保育者自身が楽しんで保育をする、粘り強くやっていく精神、受容的な考え方、保護者支援、ジェンダーフリー、まだ考え方がかたまっていない、などが挙げられた。

⑦大学で学んだ人間関係が現在活かされているか

「あなたは大学で学んだ人間関係が現在活かされていますか？」について有効回答数は42件（100.0%）で、非常に活かされているが6件（14.3%）、どちらかと言えば活かされているが11件（26.2%）、どちらでもないが21件（50.0%）、どちらかと言えばそう活かされていないが2件（4.8%）、あまり活かされていないが2件（4.8%）であった。教育・保育現場ではチームで携わっていくため、人間関係力も向上していくことは肝要なことであると考えられる。今後、能動的学修（アクティブラーニング）などを導入・推進していく上で、ワールドカフェやブレインストーミングなどを通して他者と連携していく力を向上していけるような方法を模索していきたいと考える。

⑧具体的にはどういう人間関係が活かされているか

「具体的にはどういう技能が活かされていますか？考えられるものを全て書いてください」については、あいさつなどの礼儀、上司との関わり方、協力し合うこと、認めること、人それぞれ個性があること、個性を受け入れること、大学と市役所の同期…良き相談相手・大学の先生…悩んでいることや考えていることを実現させるためのヒントを下さる、先生方や先輩方とのコミュニケーションをとる経験です。サークル活動や実行委員など、大学生活の中で得たことが活かされています、大学の友人が支えになってくれている、友人、ゼミの先生、嫌いな人を作らないようになって、楽になりました、苦手な人への対応はまだ改善できていない、などが挙げられた。

考察（①～⑧）

①②の大学で学んだ専門知識が活かされているかの項目については、様々な事柄が挙げられた。これらは主に授業での学びである。専門

科目の授業での学びは保育者養成課程において当然のことであり、乳児保育、造形、幼児体育、心理カウンセリング、障がい児保育等の具体的な授業名が挙げられているが、これらは実践を含めた授業であり、就職してそれらの知識を活かすことができたと考えられる。それと共に、5領域、PDCA サイクル等、保育全般に関わる知識、子ども理解、子どもとの関わり方、受け止め方、愛着等、子どもとの関わりに関する用語が挙げられている。

台本の書き方、舞台発表についてという項目については、4年生後期の教職実践演習の授業で、今までの学びを振り返り、劇にして発表した経験である。そのことが、子どもたちとの劇あそびに活かされているのであろうか。学びを応用していく力も保育者にとって大切な力であると考えられる。幼稚園教育要領には、生きる力の基礎を育むため、知識及び技能の基礎を一体的に育むように努めるものとするとの記述がある。学生にとっての知識、技能も生きる力につながる基盤として考えられる。

さらに①②③④を通じて、ゼミ、実習の経験、長期フィールド実習での学びが挙げられている。大学におけるアクティブラーニングの必要性が理解できると言えよう。

サークルでの経験は、本学では、演劇、読み聞かせ、ダンス、託児ボランティア等の子どもと関わるサークルが多数あり、学生のサークル加入率は74%（平成30年5月調査による）であり、学生生活における様々な経験が保育者になったときに活かされる例であろう。

また書く力、人前で話す力、子どもの前に出るとき、週案、月案を記入するときという項目が挙げられている。レポートや論文を書く経験、グループワーク等で発表する経験が、今の仕事の中で生かされているという気付きを読み取ることができる。パソコン技術や女性としてのマナーも、個々の授業だけではなく、大学での学びを総合して捉えている姿であると理解して良いのではないだろうか。

⑤⑥の大学で学んだ考え方が活かされているかについては多種多様の記述が見られた。子どもに対しては、子ども主体の保育、子どもに寄り添う、共感する、子どもの最善の利益を守る等、保育原理と保育内容を学んだ上でそれを実

践している姿が浮かび上がってきた。自分自身については、自己肯定感、人それぞれ考え方があること等の記述から、これからの人生の指標を学びながら構築していると考えられる。大学での4年間の学びが、それらに寄与していると考ええると、教育内容の精査は必須の課題である。

⑦⑧の大学で学んだ人間関係が活かされているかという項目は、答えにくい設問であり、回答は少なかった。その中でも、大学や職場の同期、先輩、大学の先生、友人等、相談相手を具体的に思い浮かべて記述している回答があり、困ったときに相談することの重要性に気付くことができるような経験が、学生生活で積み重ねられると良いのではないかと考えられる。

（2）やめたいと思ったことがあるかについて

本項では、就職してから現在までに離職を考えたことがあるかについての調査結果をまとめる。

⑪対象者は勤務園をやめたいと思ったことがあるか

「あなたは現在あなたが勤務する園をやめたいと思ったことがありますか？」について有効回答数は41件（97.6%）で、非常に思うが8件（19.5%）、どちらかと言えばそう思うが16件（39.0%）、どちらでもないが6件（14.6%）、どちらかと言えばそう思わないが7件（17.1%）、非常に思わないが4件（9.8%）であった。調査時点でやめたいと思ったことがある者が60%弱もあり、看過できない状況である。複数回答化で挙げられた理由としては、人間関係が15件（36.6%）、仕事内容が14件（34.1%）、仕事量が16件（39.0%）、処遇が9件（22.2%）、適性が12件（29.3%）、体力が5件（12.2%）、プライベートが4件（9.8%）、その他が0件（0.0%）であった。自由記述については、「人間関係」「自分は保育者に向いているかわからない時がある」「3月には同期は辞めると言っていて、同期がいない来年度の自分が働いているか想像できない」「自分の不満がどこの園でも同じなのかあたり前のことなのかかわからない。←結局「はい ごめんなさい がんばります」で続けてる感じ」「パワハラ 11/30で辞めました」「つらいと感じることはあるが、1年目のためうまくいかないことがあっても当たり前

と考えると、それほど感じない」「他にやりたいことがあるから」「保育者として子どもを叱ったり、躾のために強く注意したりすることが上手にできないので、保育士は向いていないと感じた。やめれるものならやめたいが、この先「じゃあ何するの?」と自分に問い、自分に合った叱り方を模索中です」「子どもとの生活でどうにもできなくなり困ってしまった時。一人担任だから助けてくれる人は居ない。最終的には、どうにかしないといけないと実感した」「気になる子1人と他18人を同時に見ることができなくて辛い」「家が近すぎてプライベートがなくて嫌になった。最寄りのコンビニ行ったら園児の母親がいたとか。気抜いてウォーキングしてたら、園児に会ったとか」「責任感が重すぎる。(1人担任なため、自分しかいないことが不安)」が挙げられた。

⑫やめたいと思ったが乗り越えた場合の理由は何か

「やめたいと思ったことがあったが乗り越えた場合お答えください。」について理由を聞いた所、十分な指導援助が4件、子どもが可愛いが17件、責任感が7件、慣れてきたが13件、自分の成長が4件、環境の変化が0件、その他が7件であった。自由記述については、「周りの目が気になるのでやめられない」「同じ職場の人が話を聞いてくれたりして支えてくれた」「経済面を考えると続けるしかない。また、やりたいことが今後、確実に仕事になるかわからないため、とりあえずは両立していく」「新任で担任をもたせてもらっていますが、何もかもが初めてで涙する日が多くありました。私の場合は、家族からの励ましの言葉と何週間に1回か大学時代の友人と電話で話すことや時々会うこと、大学の先生と話すこと、研修や指導を受けるなどをしてきたので、とりあえずここまで乗り越えることができました」「辞めたら「逃げた」ことになってしまうので、「それは嫌だ」と何とか自分を奮い立たせた」「生活の為」「大学など奨学金を返さなくてはいけないと思ったため」「1年で辞めるには早いと思うから」「生活面で困るから」「保護者の方から「先生が本当に大好きなんです。うちの子」という言葉を頂いたり、「先生一人で大変ですよ。本当すごいです」という励ましの言葉にすごく救われ

ました」「負けず嫌いという性格上、途中で投げ出したくなかったため」「将来のため(安定している公務員である以上辞めたくても辞められない)」が挙げられた。

⑬やめたいと思ったことがない理由は何か

「やめたいと思ったことがない場合お答えください。」については、十分な指導・援助が3件、子どもが可愛いが9件、責任感が3件、やりがいがあるが8件、適性が2件、その他が0件であった。自由記述については、「毎日本当に楽しい!やりがいがありすぎる!」「頑張って就職した分、やめたくない」が挙げられた。

考察(⑪~⑬)

⑪のやめたいと思ったことがあるかという設問に60%弱が思ったことがあると回答している。その内訳は、多い順から仕事量、人間関係、仕事内容、適性、処遇、体力、プライベートであり、職場での人間関係や、仕事量、仕事内容が負担になっていることが読み取れる。具体例として人間関係に関する例はなかったが、新任として職場環境の中で自分がどう行動したり、関係を築いていったらいいのか悩んでいると思われる。仕事内容に関しては、一人担任としての責任感、子どもを見ることができない等率直な悩みが書かれている。これらの悩みを上司や同僚に相談しようとする姿勢、もしくは相談できる環境がないからこそ、人間関係がうまくいかないことにつながっていくと考えられる。

しかし1年目のためうまくいなくて当たり前という記述に見られるように現在の自分の姿を肯定的に捉えることで乗り切っているのではないかと考える。さらに⑫のやめたいと思ったが乗り越えた場合の理由を見てみると、子どもが可愛い、慣れてきた、適切な指導援助、自分の成長の順で多かった。子どもが可愛いという理由は、保育者という職業を選んだ理由にもつながるものであり、自分の原点に立ち返り、続けていこうと思い直したと考えられる。慣れてきたということも重要である。新しい環境で、仕事に慣れ、だんだん自分の居場所を見つけることで、続けていく思いに至ったのであろう。自由記述では、職場の人、家族、友人、大学の先生、保護者等の励ましや助言、話を聞いてもらうことが大きな力になっていることが伺え

る。やめたいと思ったことがある理由に人間関係が挙げられていたが、やめることを乗り越えるときにも人間関係が大きく影響していることが読み取れる。人的環境の内容が、離職を踏みとどまる要因として問われることになるのである。

⑬のやめたいと思ったことがない理由には、子どもが可愛いに次いで、やりがいが高まっている。やりがいを感じることで、ますます子どもが可愛いと思い、仕事への意欲も高まっていくと思われる。やりがいを感じるができる職場環境がどのようなものか、この回答からはわからないが、本人がそう思うことができるような上司や同僚の適切な援助があることは間違いないであろう。

さらに大学での養成プログラムについて、現場で求められる人材像なども鑑み、精査しながら改善していくこと、学生時代に現場での仕事に耐えうる耐性を担保していくこと、就職の時にももう少し細かいマッチングを行うことなどが肝要ではないかと考えられる。適性も高く頑張っている卒業生もいることは励まされることである。教育・保育現場を取り巻く状況も含めて、大学として卒業生が働いていく環境、卒業生の能力や適性を改善・向上させるにはどうしたら良いか、真摯に検討していきたいと考える。

（３）保育者を志す、大学在学中の後輩、保育の道に進学しようとしている高校生に向けてのメッセージ

「最後に保育者を志す、大学在学中の後輩、保育の道に進学しようとしている高校生に向けてメッセージがありましたらお願いします。」については、「がんばってください。応援しています。学生のうちにしかできないことをしておいてください」「頑張ってください。でもやっぱり子ども好きじゃやっていけないし責任・覚悟をもって働きましょう、私も頑張ります…！」「どの仕事でも楽しいこと辛いことがあります。やりたいことをやってください！」「辛いこともあります、子どもの成長を感じることができるとともに自分も成長していける素敵な仕事だと思います」「日々仕事に追われ、終わりが見えないですが、子どもは

とってもかわいいです！ぜひ、一緒に保育者となって頑張りましょう！」「大変だと思うこと、悩むことたくさんありますが、やりがいをとて感じられる職業です。あきらめず、めげずに頑張ってください」「素直さ」と「柔軟性」が必要だと感じます。また、当たり前のことですが「ありがとう」と「ごめんなさい」が言えることが大切だと思います」「何か１つ、ゆずれない、他の人に負けない自分の特技があると良いと思います。あと、提出物は期限までに出す、挨拶は明るく笑顔でする！保育士は書くことが多いので、日記やメモを取る習慣をつけると良いと思います」「最初はやめたいと思うかもしれませんが、まず１年は経験してみてください。子どもたちはとても可愛いですよ！」「子どもたちは十人十色、大変なこともたくさんあるけど、本当にカワイイです。私も一年目、みんなと一緒に頑張りましょう、みなさんを待っています！」「一年目です。毎日がいっぱいいいですが、年数を重ねるうちに「毎日が楽しい」と思える日がいつか来ると信じて頑張っていますよ」「現場をよく見て、働けるか、保育の道をよく知ること大切にしながら進んでほしいと思います」「保育者になることは、想像以上に大変なことです、子どもたちの成長を日々感じる事ができる素敵な職業だと思います。たくさんのかを学んでぜひ一緒に働きましょう！」「やりがいがあるとある仕事です。１年はあつという間ですが、１つひとつの行動が子どもの成長へつながっている、子どもの成長を感じるときは、とても感動すると思います。目指している方々は、がんばってください」「大学の友人を大切にしてください。卒業後も支え合う友人となるから」「大学生でしかできないことたくさんあると思います。私は海外に行ったり、もっとたくさん資格をとったりすればよかったと後悔しています。自分のおかれた環境もあるかと思いますが、のびのびといろんなことにチャレンジしてくださいね」「保育者でいいや～と思ってこの仕事を選んだら地獄をみます。絶対この仕事がいい！やりたい！やってやる！と思えたら、この仕事を選んだ方がいいと思う」「決して楽な仕事ではありませんが“人との関わり”を強く感じ自分自身が成長していける職業だと思います。大

変なこともあると思いますが、“今”を精一杯頑張れば道は開けると思います。応援しております」「笑顔に溢れたとてもやりがいのある仕事です。一緒に頑張りましょう！！」「辛いことがたくさんありますが、すごく人から感謝される仕事。また、子どもたちを好きになればなるほど、子どもたちも保育者を信頼し、好きになってくれるので、幸せな気持ちになります」「現場で働く保育士になってもわからないことがたくさんで毎日試行錯誤しながら子どものこと、保育のこと…たくさん学んでいます。担任保育士でも難しいということは、実習生という立場で分からず悩んだり失敗したりすることは当然だし、全く自分を責めなくてよいと思います。できることだけをずっとやっても成長できないけど、「できなくても挑戦してみる」「わからなかったら聞いてみて自分でやってみる」などチャレンジして失敗した方がたくさん学べて成長につながります！同じ夢をもつ仲間として一緒に頑張っていきましょう」が挙げられた（全回答そのまま全文記載）。

考察

ここでは、就職して1年未満の卒業生が、高校生へのメッセージという形ではあるが、学生生活を振り返って、現在の心境を語っている。大変だが、やりがいがある、自分自身が成長していける職業であるという保育職の魅力について、学生のうちにしかできないことをやっておこうという学生生活についての、素直さ、柔軟さ等の人間性についてが主な内容である。実習生としての自分を振り返って、今なら失敗して当然、責める必要はないという記述があったが、学生時代の自分を振り返って、客観的に見られる視点が育っていることが伺える。さらにできなくても挑戦する、チャレンジして失敗した方が成長につながると過去の自分を肯定的に捉え、高校生だけではなく、これからの自分自身の生き方を確認しているように思われる。自分を振り返って他者に伝えることで、自分自身が成長するきっかけになれば、それも大切な学びの成果と言えよう。

保育者養成校の教員としては、卒業生が高校生に向けたメッセージを重く受け止め、より良い人材を育成し輩出していけるよう、日々研究・教育・社会貢献に邁進していければと考える。

IV. 結語と今後の課題

本稿の目的は、卒業生に行った調査用紙の回答から、就職して大学での学びがどのように活かされているのか、また大学で何を学ぶ必要があるのかについて精査することである。さらにやめたいと思ったことがあるかについてまとめ、やめないでいる理由を知ることにより、大学での学びの内容を深めていきたいと考える。

大学で学んだ専門知識や技能が現在活かされていると回答した卒業生の割合は70%弱であったが、自由記述の内容を見ると、授業のみならず、サークル活動や実習等での学びが、子ども理解、手遊びや教材、週案や月案の記入等、さまざまな場面で活かされていることが理解できた。70%という数字は就職1年目の現段階での数字であり、今後様々な形で学びが活かされていく場面があると考えられる。また大学で学んだ考え方や人間関係については、これからますます重要になってくると考えられる。すなわち、学びに向かう力、人間性を育むことは保育者としての根幹であると考ええる。それらを大学生活の中での様々な経験の中で育んでいくことが求められるであろう。

職場をやめたいという思いについても、現在の自分を受け入れ、相談することができると、状況は変わっていくと考えられる。そのような人間性の醸成が大学での学びとどうつながるのかについて現時点では断定することは不可能である。しかし、子どもが可愛い等の保育者を目指した自分の初心を忘れずに、他者と協同しながら学びに向かうことが保育者の専門性を高めるために重要であると考ええる。

この職場訪問を通して、卒業生の支援の重要性を改めて認識することができた。

課題としては、訪問を実施したのが、就職後6ヵ月を経過した頃であり、すでに離職した卒業生がいたことである。離職前に訪問できることができれば、また異なった状況になったかもしれないが、離職を考えている場合は、その実態を知ることがなかなかできない状況にあることが多い。実際訪問しようと職場に電話をかけて離職を知ったケースもあった。また、退職後に報告に来る卒業生もいた。これらの卒業生が気軽に相談できる状況はどうしたら生まれ

るのであろう。本学においては、ゼミの教員、キャリア支援課等いつでも相談に応じている。また毎年7月末には同窓会を開催し、来学を呼び掛けているが、そういう機会に参加できない卒業生が多いことも事実である。相談に来ることができれば、状況を把握し、共に考えていくことができる。友人から情報が寄せられたり、実習訪問で情報を得ることもあるので、今後も教員、実習支援室、キャリア支援課とも連携しながら進めていきたい。

また、実際に卒業生が就職した園や施設を訪問することで、園での新任研修や、指導について話を伺うことができた。このように園と大学が連携することでよりよい保育者養成に繋がっていくことができるのではないかと。今後もこの活動を継続していきたい。

付記

本研究は岡崎女子大学・岡崎女子短期大学研究倫理審査による承認を得て施行した(平成29年度通知番号15)。調査にあたっては、研究についての説明を文書にて行い研究協力承諾書を調査用紙に同封し、文書にて同意を得た。資料は匿名化し個人情報保護に留意して行った。

また、特定団体との利益相反 (Conflict of Interest : COI) はない。

研究の分担については、計画、立案は共同担当、調査の実施は大岩、佐善、鈴木が、分析は白垣が担当した。本稿は、1章、2章、3章の執筆は白垣が、3章の考察については佐善、鈴木が、4章は大岩、鈴木が担当した。

謝辞

本研究の調査にご協力いただきました、岡崎女子大学1期生の皆様、就職先の園の皆様、アンケートの集計にご協力いただきました本学事務職員加藤昭子さん、清水愛美さんにお礼申し上げます。また学科教員の方々の訪問協力にも深く感謝申し上げます。

注1) 質問用紙の(4)は13項目であるが、⑨⑩の項目については別の機会に発表予定であるので割愛した。

引用文献

1) 梅下弘樹・野田美樹・鈴木文代・鈴木方子・

大岩みちの(2018)「しなやかな保育者になるためにー現場と養成校の接続からー」,『岡崎女子大学・岡崎女子短期大学研究紀要』,49, pp. 13-22.

2) 無藤隆(2015)「保育の質の向上と選択の拡大へ」『発達』,36(142), pp. 2-9. ミネルヴァ書房.

3) 神長美津子(2015)「専門職としての保育者」,『保育学研究』,53(1), pp. 94-103.

4) 吾田富士子(2009)「保育者の専門性と課題ー幼稚園教育要領改訂・保育所保育指針改定と北海道の保育現場調査からー」,『藤女子大学紀要』,46, pp. 61-68.

5) 林牧子・新井美保子(2013)「学制から保育者への移行期支援」『愛知教育大学幼児教育研究』,17, pp. 11-19.

6) 森本美佐・林悠子・東村知子(2013)「新人保育者の早期離職に関する実態調査」,『奈良文化女子短期大学紀要』,44, pp. 101-109.

7) 岡本和恵他(2012)「早期離職保育者の課題と保育者養成校の役割」,『日本保育学会第65回大会発表要旨集』,p. 515.

8) 白垣潤・梅下弘樹(2018)「幼稚園における特別支援教育の実態についてー対応に苦慮しているケースの実態と保育者の専門性についてー」,『岡崎女子大学・岡崎女子短期大学研究紀要』,51, pp. 47-53.